

平成29年度 第3回高尾山応援基金運営協議会

議事録

日 時 平成29年10月25日(水)

午後3時30分 開会

場 所 高尾599ミュージアム2F会議室

## 平成29年度3回高尾山応援基金運営協議会議事録

平成29年10月25日(水)

午後3時30分開会

高尾599ミュージアム2F

### 1. 開 会

挨拶 会長 大野 彰

当協議会はリーフレットにもあるように「明日、明後日、100年後。あなたの“ちょっと”が、山の“ずっと”を守ります。」とあるように明日の高尾山を見守る基金をめざしていきたい。最近、高尾山では外国人利用者が増えており、東南アジア、中国など、将来的にもインバウンド対策にも関連してくる。今日は、応援基金の今後の在り方、当協会も設立から2年目の中、今後どうするか。皆さんの忌憚のない意見を賜りたい。

### 2. 委員出席人数

事務局 定足数20名中14名出席で協議会は成立。

### 3. 会 議

事務局側	司会進行	総務課長	及川 純一
委員座長		法政大学教授	杉崎 和久

- (1) 高尾山応援基金設置要綱等の変更
- (2) 山の日イベントの募金活動事業報告
- (3) 今後の取り組みについて

#### 事務局

資料の確認後、協議会要綱に従い、議事進行は座長の杉崎先生に依頼する。

#### 杉崎座長

(1) 要綱の変更説明。これについては、文言の漏れがあり軽微な訂正で、形式的な内容であり、ご了解いただけるか。(了解の声)変更内容は了承された。次に(2)山の日募金活動の報告について。事務局より説明をお願いします。

#### 事務局

山の日イベント事業報告について、当日①概要②3か所の状況③募金金額の報告④マスコミ対応⑤継続的活動は3か所に募金箱設置④寄付付き商品⑤高尾駅にてポスター掲示の協力⑥基金振込用紙について説明。

滝本委員

売り上げは8月が145,400円、9月が9万円でこのうち10%を高尾山基金に寄付し、2か月で23,493円になる。一か月10万円弱ぐらいの売り上げで、その10%約1万円の寄付金です。

杉崎座長

山の日イベントの報告と、そのあと経常的に行っている募金活動を報告いただいた。山の日に直接お越しいただいた方、ノベルティも寄付のきっかけになるという話もあったが、会場に来られていない方もいるので、報告のご意見・参加者の感想など共有する時間を取りたい。お願いします。

志村委員

募金の際のノベルティの影響は大きい。呼び込む際の有効な手段になっていると思われる。また、山の日以降の3か所に設置された募金箱の状況を教えてほしい。

事務局

山の日 8/11～9/30 までの期間になり、599 ミュージアム 5,819 円、高尾山口のむささびハウス 2,353 円、清滝駅 1,048 円、計 9,224 円が2か月間の3か所の募金箱の設置の回収状況です。

志村委員

設置の募金箱ではあまり効果がないということと、置くだけでいいのかということを検討する必要がある。

杉崎座長

山の日でのPRについて、当日の感想はありますか。

志村委員

概ね清滝駅にいましたが、募金のことを知らない人が多い中、募金を始めたことを知って気持ちよく募金をしてくれた方がいた。励ましの声もいただいた。認識を深めれば、この募金は多くの方に受け入れられ、さらに周知につながっていくのではないかと。イベント等を使えば一定の効果は得られる。

杉崎座長

私も感想を言うと、募金箱にはかなりお札が入っていたのが印象的でした。募金の際、お一人お一人に募金の説明をするのですが、皆さん、いつも高尾山にはお世話になっておりますとの声が返って、高尾山に対してお金を入れてくださる。何に使うのかというより、今日楽しませていただいた高尾山がよくなるのであればと募金をするということがありました。次はどうするのかと問われてくるのですが、募金箱を置いておくだけでなく、一人ひとり話をして理解していただいた。

#### 橋本委員

多くの方にお声かけし関心をもっていただいた。集計も携わせていただいております。通常ですと100円とか50円など多いと思いますが、目標を設置したわけではないが、個人的には自分が想定していた以上にはるかに多かったように思う。1日約10万円平均になり、非常に賛同していただける方がいらしたことになる。

高尾山に思いをよせていただいた方が多かったように思う。一方、設置のみの募金箱の金額が少ないことがわかった。置いておくだけではなかなか難しいのではと思う。募金箱のそばに、趣旨など書いたものがある程度必要かもしれない。また、これからも、もみじまつりなど多くの方が来られるイベントで、対面式の募金活動が定期的に行われることが効果につながると思う。

#### 佐戸委員

私は高尾山口駅前で募金活動をおこなった。グループや家族連れの方に多く募金をして頂いた。特にふれあいセンターで提供された木製のキーホルダーは人気があった。京王電鉄のクリアファイル、高尾登山電鉄の缶バッジなどノベルティ商品は効果があったように思う。

#### 林委員

初日、募金活動をおこない、感じたことは声かけ程度であり声を掛け過ぎるとお金を取られるという印象が強くなり、今回の活動の取り組み程度が良いのではないかと。

#### 杉崎座長

他の方で行っていない方でも意見があれば。ノベルティについては、企業さんから提供していただいて、買えないもので人気もあり効果があった。今後も反響など共有させていただきたい。

#### 杉崎座長

3.今後の取組みについて、事務局よりお願いします。

#### 事務局

先ほどもイベントでの募金は効果があるとのことご意見も頂いた中、次のイベントの取組み・募金活動第2弾として、別紙「もみじまつりの参加について」ご覧いただきたい。もみじまつり期間の11/11・12日に募金活動を考えており、委員の皆様募金活動や企業等からのノベルティ商品の協賛など、是非ご協力を賜りたい。

#### 杉崎座長

今回も続いて、イベントへの取組みになります。今回は2日間で山頂が中心になるが、前回同様、募金の呼びかけのところに参加していただきたい。お子さん向け、また、山の好きな人、山登りに必要なものなど、効果的なノベルティなども皆様にご協力を頂きたい。

今後の取組みとして、私の方から話題提供させていただく。山の日に 599 ミュージアム入口での学生によるアンケート調査(3日間で500人ほど、速報的なもの)をおこなったもので資料の説明をする。意外と30代40代の方からの回答数が多かった。内容は、高尾山に来る頻度、どこから来られたか、基金の使い方に賛同できるか、高尾山についての課題・高尾山で取り組むべき課題(自由記述)など質問をした。

結果は別紙のとおりである。登山道の整備・人が多いこと・登山のマナー・外国人が増えているなどについて自由意見があった。これらも含めて、また日常的な中での課題取り組み、あり方等あれば皆さんのご意見を伺いたい。募金の集め方やどう使うかなど議論をしていく必要がある。山の日からもみじまつりに来て、その後どうなったか答えられるようにしていきたい。今日は結論を出すというより、自由に意見を交わしていきたい。

山本委員

基金の使い方については具体的にはまだ出ていないようだが、募金をする中で使った実績があればよい。山道がよくなったなどあれば、積極的にお金を出してくれるのではないか。何に使うかをわかりやすく出していくことが大事である。先生のアンケート結果で登山道が危ない、狭いなど課題解決のために使ってほしいなどあったが、実際、登山道を修復するためには使えないという話もあった。具体的に使い道をどうするか、早いうちに明確にする必要がある。そうでないと募金活動への気持ちが伝わらない気がする。高尾山に来る人は高尾山が好きであり、高尾山のために使うということであれば協力する。使い方の目安を出すことが大切である。

杉崎座長

こういうものがあるなどアイデアがあれば伺いたい。

山本委員

青年会議所に50年前に結成した森林パトロール隊というのがあり活動をしている。小学生を募り、月に2回ぐらい高尾山の清掃運動をしてきた。そういう団体に何かしら資金として提供し応援することはできないだろうか。高尾山に取り組んでいる団体に補助的に提供できないだろうかと思う。

杉崎座長

団体支援については、リーフレットの中に「つなぐ」をテーマに支援は謳っている。事務局の方で高尾山での活動について取り組んでいる団体を調べてほしい。

事務局

承知した。団体の洗い出しをする。

船江委員

現在どれだけ募金が集まっているか教えてほしい。

事務局

募金額は 298,011 円、当初の市からの出捐金の額は 150 万円で、そこから事業費を除き募金額を足すと基金総額は 1,546,000 円です。今年度の事業費の予算は 5 万円だが、今年の募金額で次年度の事業費に充てることになっている。

杉崎座長

(3) 今後の取り組みについて意見交換をしたい。まず、今年集まったお金で何をするか。また、今後どう集めるかなどご意見をいただきたい。

事務局

寄付金の集め方について、現在、市と事務局で検討をしている。税制面の優遇があれば団体からの寄付を得られやすく効果的である。そのためには法人化が課題である。

杉崎座長

税制面から、何に使うかを具体的に表わさないと寄付は集まらない。企業が言っているのは目標がいくらではなく、これをやるからいくら集めましょうということになる。やること決まっていないのに 300 万円ということにはならない。順序が逆。1 回目からそういう議論になっている。今の募金規模だと数万円というのが現実的。高尾山についてこういう課題があり、それに対してどう取り組むかを考える。それが 1 つの目標になり何をやるべきかを決めるということである。

大野会長

高尾山で気持ちよく過ごすための課題に対して、情報収集やマナーを周知したりするなど計画して、これくらいの規模であると何千万円かかるなど決めていかないと確かに企業からお金は出しにくい。また、現在の募金箱は小さすぎるし、そのままと理解を得られないと思う。もっとわかりやすく説明が必要である。こんなことをやるとなると、何年でどのくらい必要なだと目標額が出てくる。そうしないとなかなか進まない。

橋本委員

非課税団体になる価値はどの程度なものかと考えているのか、会長にお聞きしたい。一方で、民間企業は社会貢献を求められていて、賛同できる場所は活動を共にされている。そこに、高尾山応援基金運営協議会自体が任意団体だから、事務局を NPO か法人化することにより非課税団体と認証を受ける。寄付者側からすればそれは非課税扱いになるということです。その優位性として企業はかなり感じているのか。企業では非課税扱いになることがどの程度重要なことなのか。

大野会長

それは企業として重要であると考えます。寄付金控除がないとやらないのではないかと。

坂口委員

たましんでは、それは求めている。

橋本課長

事業者により違うということですか。

杉崎座長

規模が問題になるが、賛助会員のような形で 1～2 万円などもあり。個人の寄付でも、認定を受ける公益法人になると控除を受けられることになるが、それより、その法人の組織を維持することが気になる。会長の意見で、これまでの議論で課題解決型について話してきたが、高尾山に来られた方が気持ちよくするために何かをするという切り口で考えることもある。そういうアプローチも前向きでよいと思う。

山本委員

広報の一環として、例えば高尾山の映像を作るとか高尾山のハイキングの良さをアピールするとか、また、動植物の宝庫であることも取り入れられる。そういう点についてご存じない方もいるのではないかな。そういった高尾山の魅力を DVD の映像にしたらどうか。

杉崎座長

インターネットとか YouTube にアップするなど発信することも考えられる。

橋本委員

印刷物にして配るのもよいが、将来的には Facebook、ホームページなど IT 系の出し方もあり有効である。チラシのマナー啓発もゴミになれば意味がなくなる。短期間ではそういう方法もよいと思うが、作るのにはお金がかかり、資金もないのでゆくゆくよいのではと前回も意見が出た。今は 30 万円集まり、寄付してくれた人たちにどんな活動をしていくかを周知することが大切。報告する必要が出てくる。マナー啓発も短期的には紙でもよいが、将来的には電子媒体での出し方もあるなど整理する必要もある。具体的には、企業にも賛同してもらうなど IT 協力を依頼など働きかけることも出てくる。

大野会長

高尾山に出入りしている会社は応援基金に賛同してもらえる。1～2 年目ぐらいまでは現在のような形で、その後協賛という形にしていくなど考えられる。何も決めないで募金だけ集めようというのも難しい。

杉崎座長

クラウドファンディングもある。これをやるからいくらかかる。基金を通さなくてもできる方法もある。むしろここでは、こういうことを取り組まなくてはならないということが出てこないとやるのがなくなる。一つは高尾山とのかかわりを伝えていくこと。気持ちよく高尾山を過ごしてもらうためになにをするか。マナーもそうである。

大野会長

サインもあるが分かりにくいという声もある。ゴミが多いという意見もあった。

杉崎座長

一部の方の意見であり、初めて登った方の意見かもしれないが、すべての方がそう感じているとは限らない。主観が入っている。

青木委員

高尾山は植生が豊かなので、動植物の数を今以上に増やしていくなど、環境保全に関することに使うのもありではないか。そのために、高尾山応援基金を集めてデジタルサイネージなどで周知をするなどできるのではないか。環境保全のPRをしていくなどの目標を定めて、何か年でやっていくというのはどうか。

杉崎座長

興味のある人は募金をしてくると思える。高尾山の魅力を知ってもらうことにも通ずる。

滝本委員

リーフレットにも約束が書いてあるので、尊重しながら決めていくことも必要である。抽象的なことも多いが、2番目で団体をサポートしていくとあり、これはやっていかなければならない。3番目に世界の人々への広がりが出てくる。ある意味、こことつなぎ合わせて、登山者や外国の方々にも高尾山を守っていただくための活動をする団体をサポートするなど出てくる。そこを固めたうえで進めていかないと約束違反になってしまう。

杉崎座長

そうすると、事務局で作ったリーフレットの内容をかなり昇華させ、ここを手掛かりにして進めていくこともきっかけとなりわかりやすい。

滝本委員

課題解決については、解決できないとまずいので、慎重にやっていかないといけない。この課題は一部のマナー違反の人がいることによるものであり、それを進めることは結果や事業報告としてやや地味になる。子供たちが喜んでいる顔など結果報告に出せた方がより良い。募金を出していただいた方の共感を得やすい。

杉崎座長

課題解決は、そう手間暇かけずに取り組む。

滝本委員

ゴミ関係でいうと、外国人にゴミ箱がないのかと聞かれるが、ゴミ持ち帰り運動が伝わりにくいのか。

橋本委員

団体にサポートする意見も出たが、お金が潤沢になり、必要な備品を買ってあげたりするなど支援につながると思うが、子供たちも少子化で減少傾向でもある。事務局で調べていただき、高尾山のために活動している団体や、例えば少年団体の活動の内容やPR などホームページに掲載することで関心が高まり、紹介してあげることも支援につながるのではないか。

杉崎座長

そもそもお金がないが、広報をしていくことも重要。館長から話が出たが、リーフレットが拠り所になるので、それぞれに対して何をやるのか、3「つたえる」だと子供たちへ世界へというテーマになっている。そのようなことを重点的に何かできないか。ゴミ持ち帰り運動をどうするか。4番はそのやり方を含めて考えていくと進めていきたい。お金をかけずに1年目はやるような気がする。あと、29万円集めたことをどう伝えていくか。どこかを見ればわかるということが必要であり、応援基金とは何かも表現することも必要である。

山本委員

高尾山応援基金と検索すると協会のホームページでわかるのか。

事務局

協会のホームページの「おすすめ情報」に出てくる。協議会のホームページは立ち上げていないので、詳細は載せていない。

山本委員

ホームページがあれば基金がどのくらいあるか見ればわかるようになる。

杉崎座長

お金を10万円20万円かけて立ち上げなくても、検索すると協会内に見られれば、何もないより良いのではないか。動いていることがわかれば良い。今後は、年度内にリーフレットの内容の掘り下げをしていく。今回は意見交換ということにとどめる。次回は、次年度の事業計画を議論していくこととしたい。

#### 4. その他

事務局 次回の第4回高尾山応援基金運営協議については、追って連絡をする。

#### 5. 閉 会

協議会委員出席者名簿

出席委員	欠席委員
1. 大野彰 委員(会長)	1.尾形 功 委員
志村勝 委員	2.佐戸 博 委員
2. 船江 栄次 委員	3.小宮 猛 委員
3.井上 利二 氏(代理)	(加藤 潔英委員)
4. 天野 守 委員	4. 石井 征二 委員
5. 坂口 俊章委員	5. 屋代 忠幸 委員
6. 林 康男 委員	6. 松本 晃一 委員
7. 山本通陽 委員	
8. 佐戸 勝一 委員	
9. 増田 茂委員	
10. 滝本 慶三 委員	
11.杉崎 和久 委員(座長)	
12.橋本光太郎 委員	
13. 青木 一浩 委員	
14.高橋 徹雄 委員	